

講演内容・講師紹介

『山口県の気候はどう変わる？』 ～地球温暖化による気候変化と将来予測～

地球温暖化とは何でしょうか？一般的には、人間の活動に伴って大気中の温室効果ガスの濃度が増加し、それによって気温が上昇することを指します。

それでは、地球温暖化に伴って気象はどのように変わってきたのでしょうか、また、将来どのように変わのでしょうか？

気象庁の観測データや最新の地球温暖化予測情報に基づいて、これまでの気候の変化と予測される将来の気候についてお話しします。



気象庁 地球環境・海洋部気候情報課
調査官 田中 昌太郎

気象大学を卒業後、広島地方気象台、大阪管区気象台を経て、主に気象庁地球環境・海洋部気候情報課で気候の監視・解析に関する業務を担当。2017年4月からは現職として、地球温暖化の監視・予測に関する業務を行っている。

『豪雨災害軽減のための基礎研究』 ～雨を測る～天からの手紙を取りに行く～

「平成 29 年 7 月九州北部豪雨」は記憶に新しいところですが、このような集中豪雨や近年よく耳にするゲリラ豪雨のような極端な降雨現象が、今後増加するだろうとも言われています。

こうした極端現象の予測はまだ十分ではありません。多くの研究者が努力しているところですが、本日は、雨や雪を測るということ 키워ドに、私たちが取り組んでいる豪雨災害軽減のための観測研究についてお話しします。



国立大学法人 山口大学大学院 創成科学研究科
農学系学域 准教授 鈴木 賢士

平成 9 年九州大学大学院理学研究科博士後期課程修了、博士（理学）取得。
平成 10 年山口大学農学部助手。
平成 19 年山口大学農学部准教授。
平成 28 年山口大学大学院創成科学研究科准教授。
日本気象学会九州支部理事。山口県環境影響評価技術審査会委員。気象予報士。専門は気象学（雲物理）。固体降水粒子の鉛直分布と水の集中化プロセスに関する観測的研究や降水粒子測定のための新しい観測機器の開発研究などに従事。

『家庭で出来る温暖化対策』

地球温暖化対策として、日本はパリ協定に批准し、2030年度の温室効果ガスの排出量を2013年度比で26%削減するという目標を掲げています。

この目標達成に向け、環境省では国民運動「COOL CHOICE」をスタートしています。

本日は、この「COOL CHOICE」を中心に、私たちがまずは家庭からできる地球温暖化対策について、皆さんと一緒に考えたいと思います。



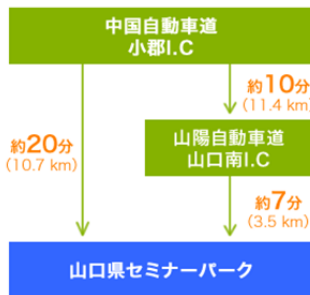
山口県地球温暖化防止活動推進センター
かずつく
大森 一世

平成 14 年から山口県地球温暖化防止活動推進センター業務に従事。
主に家庭部門の温暖化対策の啓発業務を担当。環境省環境カウンセラー、山口県環境アドバイザーとしても温暖化防止の啓発に取り組んでいる。

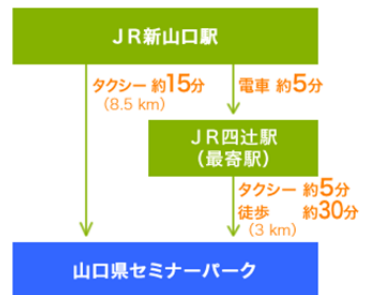
会場へのアクセス



<自家用車でお越しの場合>



<公共交通機関でお越しの場合>



セミナーパークには、第1から第8までの約800台の駐車スペースがありますが、利用者が多く収容できない日もありますので、相乗りにご協力をお願いします。

※山口県セミナーパークHP <http://www.hito21.jp/seminarpark/access.html>